

## 「新聞への意見投稿」平成27年度掲載文の紹介

本校では、国語の発展的な学習として、文章をまとめる力を育成することや若者の意見発表のよい機会として、新聞の投書欄への投稿を勧めています。今年度も、行事や学校生活への思い、日頃感じていることなどを投稿したものが各紙に数多く掲載されています。

中学生には、これからの変化の激しい社会を生き抜くために、身に付けた基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けるとともに、それを生かして課題解決を図る力を身に付けていくことが求められています。自分自身の考えを明確にして発信することは、自ら考え、判断し、行動する力の基盤となります。短い文章の中に、物事を正しくとらえた上で、感じたことや意見を表すことは、大人でもなかなか大変なことですが、掲載された文は、これらのことをしっかりと自分自身の言葉で表しています。ぜひご家庭の皆様でご一読ください。

※ 東京新聞「若者の声」 平成27年4月1日（水）掲載

### 亡き祖母への「ありがとう」 2年男子

私の祖母が2月に亡くなりました。あまり一緒にいなかったせいか、悲しみよりも驚きの方が強かったです。祖母との思い出は、と聞かれても、なかなか答えられないと思います。

そんな私を見て母はアルバムを見せました。そこには幼いころの私と、とても元気そうな祖母が写っていました。私を抱きうれしそうな顔や、慣れない私の二足歩行を応援している姿などがありました。

「記憶になかったけど、こんなにたくさんの思い出があったんだ」と思うと同時に、悔しさも込みあげてきました。何で祖母のお見舞いに行って、話してあげられなかったのだろうと。今思えば「ありがとう」さえも言っていなかったのです。もう遅いけど「ありがとう」と言いたい。

※ 朝日新聞「声 voice」平成27年4月7日（火）掲載

### 「確信犯」の意味 知ってますか？ 3年女子

テレビを見ていて、日本語の乱れに気がつく。その原因は二つあると思う。一つは美しい言葉を使用していないことだ。何げなく使っている「やばい」は美しくない言葉だ。「やばい」は元々、泥棒たちが都合が悪くなったときに使っていた隠語だそうだ。言葉がもつ本来の意味を知る必要がある。

もう一つは、言葉を正しく使っていない人が多いと思われることだ。例えば、「確信犯」の意味。「悪いことだとわかっていながらなされる犯罪」と思っている人が少なくないのではないか。しかし本来は「宗教的、政治的確信に基づいて行われる犯罪」なのだ。

日本語の乱れは食い止めなければならないし、正しく使っていきたい。そのためにも、私は本を読んで言葉を知り、辞書を引いて理解を深め、言葉の引き出しを増やしていきたい。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」 平成27年4月13日（月）掲載

### 出会いのある春にわくわく 3年女子

春は別れの季節であり、出会いの季節でもある。仲のよかった先輩たちと離ればなれになる卒業式が終わり、4月になって入学式や始業式のクラス替えで新たな出会いが生まれる。この季節はわくわくする。

小学校の卒業式のとて、私と仲のよかった友人が私立中学に進学して別れ別れになった。1年生からずっと付き合っていた友人だったのでとても悲しかった。

中学校に入り、同じクラスの女の子と友人になった。人見知りの激しい私に、席が隣になって声を掛けてくれたのだ。それからずっと仲良くしてきた。しかし2年生のクラス替えで別々になってしまった。それが3年になった今年、再び同じクラスで学ぶことになったのだ。

別れは悲しい。でも出会いは、とてもうれしく楽しいものだ。自分が大切にできる親友と出会うかもしれない。生涯愛する人と知り合えるかもしれない。そう考えるとわくわくする。

※ 東京新聞「若者の声」平成27年4月15日（水）掲載

### 家で避難訓練 災害に備える 3年女子

4年前の3月11日、東日本大震災が起こったあの日以来、わが家では1カ月に一度、家の中で避難体験の訓練を行っている。家中の電気や火を消してロウソクをつけ、夕飯は非常食を食べる。

訓練を始めてみると、実際に足りないものがたくさんあることに気付いた。心配ないと思っていた非常食が人数分なかったり、明かりや暖房も不十分だったりして、暗くて寒かった。

このような状況を経験して、非常持ち出しカバンの中身を定期的を確認しなければいけない、ということも分かった。自分の家は大丈夫だと思っている人も、一度、非常時の備えを確認してみてもどうだろうか。そうすれば、災害が起きたとき、慌てず適切に行動できると思う。

※ 東京新聞「若者の声」平成27年4月22日（水）掲載

### 選挙権年齢は現状のまま 3年男子

選挙権年齢を20歳から18歳に引き下げる動きがあることを知った。僕は、現状のままなら年齢を引き下げることに反対だ。それよりも、政治に関心が持てるような授業を学校で行うことが先だと思う。

確かに、年齢を下げれば、現在より、若い人の意見を政治に取り入れることができるかもしれない。しかし、現在の日本では選挙の投票率は低い。特に若者の投票率が低く、年長者の意見が幅を利かす政治になってしまっている。このような状況で、投票する権利を18歳に引き下げても、現在の政治や選挙の課題が解決するかどうか疑問だ。

僕たちには、まだ政治の本当の仕組みや内容は分からない。学校で、若者の政治離れを改善するような授業を増やすことが大切だ。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」 平成27年5月11日（月）掲載

### 何かを達成して卒業したい 3年女子

私は今年、中学の最上級生になった。来年の春には中学を卒業することになる。「卒業する」ということは、単に教育課程を修了するだけの意味だろうか。私は違うと思う。

「卒業」という言葉はさまざまに使われる。通っていた塾や仕事を辞めるときに「卒業する」と言うし、赤ちゃんが歩けるようになったとき、「はいはいを卒業した」という。

「卒業」という言葉は、何か一つのことを達成し、次の目標に向かうときに使う言葉だと思う。あと1年しかない中学校生活で何かを達成して卒業しなければいけないと思う。

私は小さいときから水泳を始め、今でも続けている。中学を終えるまでに自分なりの記録を残すという目標がある。受験や学校の行事などでも最上級生として頑張らなくてはならない。

その中で苦しいことやつらいことがたくさんあると思うが、笑って中学校生活を卒業したいと思う。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成27年5月17日（日）掲載

### メディアを信じられる社会に 3年男子

最近、NHKの過剰演出問題を取り上げた記事を読んだ。放送された報道番組で、意図的なやらせがあったのではないかと指摘を受けているらしい。

少しメディアとしての意識が甘いのではないだろうか。本来メディアとは正しい情報を国民に伝えるためにあるものだ。それを視聴率を上げるためや自分たちの都合で、事実をねじまげて放送するとしたら間違っていると思う。

僕は、毎日テレビのニュースを視聴している。少なからずそれに影響されているし、当然、放送されている内容は事実だと思っている。しかし今回、本当にこのニュースを信じていいのだろうかという疑問が生まれるようになった。

僕は、自分の周りの情報が信じられない社会はとても恐ろしいと思う。そうならないためにも、メディアはもっと責任を持ち、常に真実を伝え続ける機関であってほしいと思う。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成27年5月18日（月）掲載

### 迷惑を受けても許せる人間に 3年男子

大型連休中、クロスバイクで長距離サイクリングをした。泊りがけで静岡県熱海市に行った帰り道でのことだ。

片側1車線の国道。右肩の数10cm横を大型トラックが風のごとく通っていく。とにかく怖い。そんな中、1台の乗用車がスピードを落として通り過ぎて行った。

運転手が一体何を思っているのか、私にははっきりとは分からない。決して広くはない車線を走る「邪魔」で迷惑になっている自転車と私であるにもかかわらず、配慮してくれたのかもしれない。

この時、私は強く感じた。それは、人間はどうしても他人に迷惑を掛けてしまうということだ。日常生活で何度も感じる。自分が迷惑を掛けることもその逆も。それによって社会が動いている。だから私は、人に全く迷惑を掛けない人間であるよりも、迷惑を掛けられても受け入れ、許せる人間でありたい。私のような未熟な中学生こそ、こう思える人が増えれば今よりも明るい日常になるだろう。

※ 東京新聞「若者の声」平成27年5月20日（水）掲載

社会のマナー 大人が手本に 3年女子

大人に注意されるとき「最近の若い子は」と言われることがある。例えば、スマートフォンの使い方や、電車内で騒いだときにだ。それは「マナーが悪い」と言われても、仕方がないと思う。しかし、大人のマナーも「どうなの」と疑問に思うことがある。

先日、電車内で驚いたことがあった。座席に荷物を置いて、新聞を広げ、足を組んで座っている大人がいた。なんて自分勝手な人だろうとがっかりした。

そして、電車内で平気で携帯電話で話す大人もよく見かける。それを若者が見て、どう思うか考えてもらいたい。だから、大人には悪い手本ではなく、良い手本を見せてもらいたい。そうすれば、マナーの良い社会になり、誰もが気持ちよく過ごせると思う。

※ 毎日新聞「みんなの広場」平成27年5月22日（金）掲載

家族そろって「当たり前」に感謝 3年女子

私には大学生の兄が2人いる。一人は実家暮らしで今、就職活動をしている。もう一人は昨年、大学に入学し、今年の春から一人暮らしを始めた。

一人暮らしの兄を誘い、先日、久しぶりに家族5人で食事に行った。そこで気がついたことがある。それは当たり前のことの大切さだ。家族がいて一緒に暮らすのは当たり前だと思っていた。でも、兄が一人暮らしを始め、家族全員がそろって食事は当たり前のことでなくなった。だから何気なくしていた5人での食事が、この間は、すごく特別な日のように思えた。食事が終わり兄と別れるのが、いつもより寂しく感じられた。

この経験を通して、普段当たり前のように過ごしている日々はとても大切なものだを知ることができた。このことは、家族だけでなく学校生活や友達でもそうだと思う。学校に通っていること、友達と話していること。その一つ一つを大切に、過ごしていこうと思った。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」平成27年6月1日（月）掲載

人をつなぐ活気ある商店街 3年女子

自転車で東京都北区にある祖母の家に行った。途中、道路の両側に店が軒を並べる商店街があったので、自転車を下りてゆっくり歩いてみた。

商品が店からまるではみ出すように置かれている。果物が並べられた八百屋さんの値札は段ボール。そこに味のある手書きの文字が書かれている。割引の音が響く。店員や買い物客が談笑している。いつも私が買い物をするスーパーやコンビニエンスストアが何か異質なもののようだ。道を歩くおばさんが、知り合いの人に「あの店、この店、みんな知り合い」と楽しそうに話しているのが印象的だった。この街では人と人がつながっている。

最近市内では、閑散とした商店街が増えているようだ。スーパーやコンビニの出現が一因になっているだろう。でも便利さを優先して商店街の活気がなくなるのはとても悲しい。商店街の活気とコンビニの便利さが、ぜひ共存してほしいと思う。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成27年6月1日（月）掲載

### 学級委員に誇りと責任 3年女子

私は初めて学級委員という人をまとめる立場になった。今までは、注意されても友達としゃべってばかりで注意されることを何とも思っていなかった。学級委員なんて、みんなを注意するだけの簡単な仕事だし、誰にでもできるものだと思っていた。

しかし、いざ自分が学級委員になるとその考えは変わった。みんなの前で司会をするのも、注意をするのも緊張するし、注意しても聞いてくれない時もある。私が注意されても聞かなかった時に、前の学級委員もこんな気持ちだったんだなあと反省した。だけどそんなつらいことだけでなく、慣れない私を応援してくれる人もいるし、みんなの役に立っていると思うと、とてもうれしくなる。

学級委員は今まで自分が思っていたより大変だけど、その分やりがいを感じている。私はこの仕事が好きだし、学級委員という役割を誇りに思っている。

※ 東京新聞「若者の声」平成27年6月3日（水）掲載

### 読書がくれる人との出会い 3年女子

読書は、私たちにたくさんのことを教えてくれる。しかし、読書の良さはそれだけではない。時として、本は人と人をつなぐきっかけにもなる。

私の学校ではカタログフェアというものを行っている。それは、図書館に置いてほしい本を生徒がリクエストできる制度だ。私が厚いカタログから本を選んでいると、昔読んだ懐かしい本を見つけた。それを眺めていると、一人の女の子が話しかけてきた。あまり話をしたことのない子だった。

「その本、読んだことある？」 私は驚いた半面、とてもうれしくなった。その後は、もっといろいろな話をして、今では大切な友だちになっている。

私はこれからも、本がくれるたくさんの出会いや幸せを大切にしたいと思う。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」 平成27年6月8日（月）掲載

### 山であいさつのすばらしさ実感 3年女子

今年のゴールデンウィークに家族で長野県へ登山に行った。

私は登山が大好きだ。大自然の中を歩き、都会では触れたり見たりすることのできない植物や虫を身近に感じるのが理由の一つだ。もう一つは登山道で、見ず知らずの人が交わすあいさつだ。最初に登山に行ったときには驚いたが、最近は自分からあいさつするようになった。

山で笑顔であいさつされると、うれしくなるし、気持ちも温かくなり、疲れた体も癒される。私は、このあいさつに日本の良さがあると思う。知らない人でも笑顔であいさつを交わし、会話ができる。

でも残念なのが、ふつうは山から下りて、家に帰るともうしなくなる。こんなに温かいあいさつという文化があるのだから、山だけでなく、もっと広がってほしいと思っている。

だから私は、学校や習い事でも積極的に明るくあいさつして、みんなの心を温かくしたい。

※ 東京新聞「若者の声」平成27年6月10日（水）掲載

あふれる情報「取捨選択」して 3年女子

私たちは今、いつでもどこでも、手軽に情報を手に入れることができる。だが、押し寄せる情報に流されてはいないだろうか。

以前、イスラム過激派組織による邦人殺害事件や川崎市の中1男子殺害事件が起き、報道機関は連日、朝から晩まで情報を提供していた。それに対し、視聴者らの多くが心を痛め、メッセージを寄せた。しかし、次第に人々の関心は薄れ、今ではほとんど耳にすることもなくなった。

報道機関は常に新しい事件・事故を追いかけて、新しい情報を流し続けている。そして私たちも、最新の情報を目で耳で追い掛ける。そこで、情報に押し流されることなく、取捨選択して本質を見極め、正確に安全に利用・活用することが大切だと思う。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」平成27年6月22日（月）掲載

運動会でクラスの心一つに 3年女子

私たちにとっては中学生生活最後の運動会が先日行われた。「最後」という言葉は特別で、どのクラスも気合が入っていた。3年生の全員が一生懸命で、どこが勝つのか最後まで分からないほどだ。

「絶対に優勝する」とクラス全員が同じ目標を持って運動会の日を迎えた。みんなが全力で競技に取り組んだ。それでも練習通りにいかずに悔しくて涙を流した場面もあった。昼休みにクラスの全員が輪になり、お昼を食べた。今回の運動会は、何10年後になっても忘れられないようなことがたくさん詰まっていた。

残念ながら優勝はできなかった。しかし、みんなの心が一つになって円陣を組んだり、応援をしたり、勝つことよりも大切なものを手に入れることができたと思う。これからまだ、学習発表会や合唱コンクールなど中学校最後になる行事がある。このクラスならみんなで頑張れると思っている。

※ 東京新聞「若者の声」平成27年6月24日（水）掲載

勝てる人ほどミスから学ぶ 3年女子

中学3年の私にとって、残りわずかとなったバドミントンの試合があった。結果はあまり良くなかったが、引退を間近にした今、得たことが一つあった。

それは、勝ち進んだ人ほど、試合でできなかったことをよく反省して修正し、練習や次の試合に挑んでいるということだった。私が負けた相手や、上位に入った人は、ミスをした後に同じ動きをして、修正点を確認していた。しかし私は、ミスをしたらまた次に頑張ればいい、としか考えていなかった。それが私と上位の人との違いだった。

「自分のミスをそのままにせず、次に生かす」。これが、試合でも毎日の生活でも、一番大切なことであることが分かった。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成27年7月14日（火）掲載

### 米国留学で視野広がった 3年女子

4月から1カ月間、ひと月とは感じられないほどの濃い時間を私は米ロサンゼルスで過ごした。水泳で留学したが、それよりも私生活や自分の考えが変わった。日本人が周りにいない中での練習は想像よりもきつく、英語でのメニューは最初聞き取れず、練習どころではなかった。悔し泣きをしたことのない私が泣きながらホームステイ先の家に帰ったのを覚えている。慣れない場所と自分の未熟さを痛感した。

どうやったら外国人選手に勝てるか、体のハンディをどうカバーするかを考えながら練習に励んだ。

1カ月で学んだことは、日本では思いつかないことを考え、自分で行動できるようになったことだ。この経験でこれまで見えなかった所まで視野が広がった。

つらいことがあったけれど、その分成長できた。この経験をさせてくれた母に感謝の気持ちでいっぱいだ。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」 平成27年8月1日（月）掲載

### 戦争をいつまでも語り継ぐ 1年女子

今年は終戦から70年の年だ。私は小学6年生のとき、太平洋戦争について調べ、みんなの前で発表した。このことで少しは戦争の悲惨さを知ったつもりだ。70年前の8月6日、広島に原爆が落とされた。多くの人が熱風にあおられながら命を落とした。生き残った人々も放射能で体を壊されていった。原爆は広島を破壊した。今を生きている人のほとんどは、戦争を知らない。知らないままでいいと思っている人もたくさんいるはずだ。しかし私はそれではいけないと思う。太平洋戦争は過去のことだけれど、忘れてはいけない。むしろ戦争は過去のことではないし、いつ起きるか分からないと思うからだ。この体験を忘れないようにするためには、今生きている戦争体験者の人たちからわずかでも話を聞き、未来に生きる人たちに伝えることが必要だ。そしていつまでもそれが語り継がれるようにすべきだと思う。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成27年10月5日（月）掲載

### これからの日本、少し不安に 3年女子

参院で安全保障関連法が可決・成立したことを伝えるテレビのニュースに、私はくぎづけになった。そして同時に、「これから日本はどうなるのだろう」と少し不安になった。私はまだ、政治について勉強不足だと思う。けれど、そんな私でも思うことがある。それは「政府はもっと国民の声に耳を傾けるべきだ」ということ。もちろん、国民一人一人の意見を聞くわけにはいかない。しかし、賛否両論の今回の法については、反対する人が国民の約6割を占めているという話を聞いた。ただ、法に対して文句を言っているだけの人もいるかもしれない。 そうだとしても、ここで立ち止まって国民の声に耳を傾けてもよかったのではないかと思った。これからの日本に生きる私たちだからこそ強く言いたい。こういったちっぽけな意見でも国民の一人が日本のことについて考えた結果だ。不安もあるが、これからの動きを見つめていきたい。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」 平成27年10月12日（月）掲載

魔法が使えるおばあちゃん 1年女子

私は毎年夏休みに仙台の祖父母の家に行きます。しかし今年は、高校受験のための夏季講習などで行けませんでした。このため9月の連休を利用して祖父母の家に行ってきました。祖母は79歳で、祖父の歯科医院で長年働いていました。私が病気やけがをしたときには、祖母がくれる薬で不思議に治るのです。小さい頃は、おばあちゃんの魔法だと思っていました。今回行ったとき、祖母と一緒に寝ました。祖母が「夏はたくさん勉強したって聞いたよ。冬が楽しみだね」と笑って話しました。実は、夏休み後の模擬試験の結果が振るわず、落ち込んでいたのです。祖母の言葉が、私の心を晴らしてくれ、助けられたような気になりました。祖母の相手の不安を察知する力は、長年の経験からかもしれません。でも私には心のけがを治す魔法のように思えました。いつか私も祖母に魔法をかけて恩返しをしたいと思います。

※ 東京新聞「若者の声」平成27年11月4日（水）掲載

平和のために努力する姿を 3年男子

先日、国語の授業で戦争についての詩を読み、友だちが「今、日々を過ごしていることはとても大切なんだ」と言った。僕は自分のことばかり考えていたことが少し恥ずかしかった。朝鮮半島では軍事的緊張が絶えない。中東の人々は民族対立や過激派の脅威にさらされている。日本では安保関連法が成立した。集団的自衛権が行使されれば、自衛隊が戦闘に巻きこまれる危険性は高まる。僕たちはそれぞれが平和についての大切さをしっかり認識した上で、日本を守るための努力をしなければならぬはずだ。世界中の人々の心を動かすくらいに、日本が平和のために努力する姿を見せていくべきではないか。

※ 東京新聞「若者の声」平成27年11月18日（水）掲載

電車内の行動 他人見て反省 3年女子

電車の中で「どうなの」と思う行動がある。それは、若者が優先席に当たり前のよう座っていることだ。お年寄りや小さな子ども連れが来たときに、譲ればいいのだが、多くの人が、知らん顔をしている。そこで、自分はどうか考えてみた。優先席ではないにしても、見直すべき行動が頭に浮かんだ。お年寄りが来たときに、席を譲って気分を損なってしまったらと考えて、勇気が出ず、そのまま座っている。これでは、自分が「どうなの」と思ったことと同じだと気がつき、反省した。そこで、考えるだけでなく、行動に移すことが重要だと思った。それは、勉強などさまざまな場面で必要だと思う。他人の行動は、自分自身を見詰め直す良いきっかけになった。



※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」 平成28年1月11日（月）掲載

能に触れ、すばらしさ実感 2年女子

昨年、私が通う学校で日本の伝統文化の「能」について学ぶ機会があった。学ぶ前は能という名前は知っていても、見たこともなければ、特段の興味もなかった。しかし、初めて能に接し、今は「日本の伝統文化といえば」という問いに「能」と答えるようになった。実際に能の舞台に携わっている人たちが学校に来てくれて講演会が開かれた。その中で主人公であるシテを演じる人や、囃子の小鼓、大鼓を担当する人が話をしてくれた。そのほかに能の歴史を学ぶことができた。最後には、講演をしてくれた人たちが「屋島」という演目を披露してくれた。能の舞台を見て、その迫力のある動きと、声の張りに圧倒され、胸がドキドキした。「これが日本の伝統文化なんだ」と実感した。能の素晴らしさをもっと広がればいいと思っている。これからも自分の知らない伝統文化に触れてみたい。

※ 東京新聞「若者の声」平成27年3月9日（水）掲載

周りの人々の支え忘れない 3年女子

「受験は孤独でつらく、苦しいものだ」。これは私がこの1年間、塾の先生に言われてきた言葉だ。受験を終えた今、残念な結果に終わった高校もあったし、実際、人生の中で一番不安でつらかった。しかし、この言葉には一つ間違いがある。受験は孤独ではなかった。つらい時、苦しい時、いつも先生や家族、友人がそばにいてなぐさめてくれ、勇気づけてくれた。相談にもたくさんしてもらった。それはとても大きな支えになった。その人たちがいなかったら、受験を乗り切ることができなかったと思う。だから、周りの人たちにしっかり感謝の気持ちを伝えたい。そして、自分がどんなに素晴らしい人たちに支えられていたのかを忘れないようにしたい。